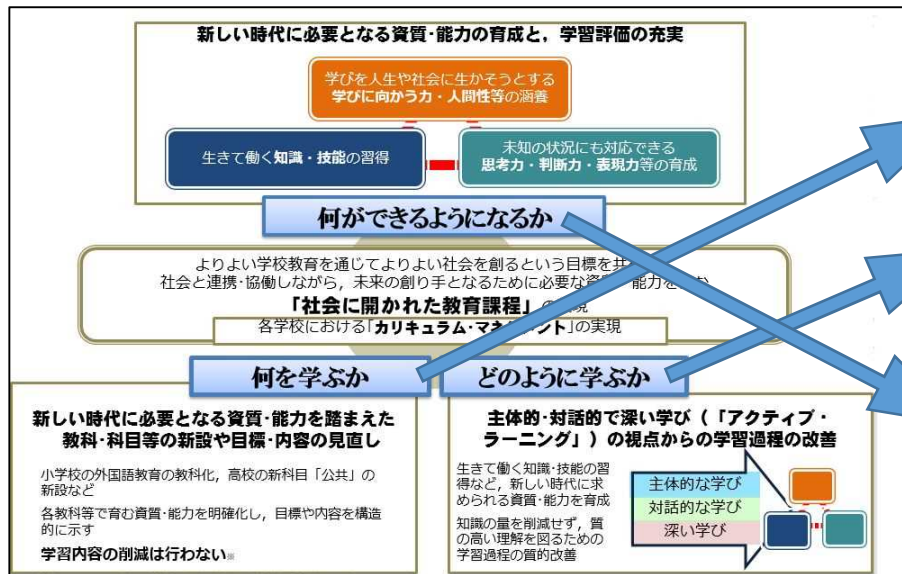


「ねらい」の設定について

大分教育事務所



【ねらいの書き方の例】

A 学習内容

（～を、～について、等）

B 学習活動

（～～を通して、～～でまとめて、～～と比べて、等）

C 育成を目指す資質・能力

（～～できるようにする。～～に気付くようにする。～～を高める。等）

ねらい（管内の学校の実践例）

【小6社】

当時の日本と欧米諸国との関係の変化を、／3枚の風刺画を見比べながら、その特徴と表す意味について話し合う活動を通して、／読み取ったりまとめたりできるようにする。

【中2数】

図形の辺上を動く点により変化する時間と三角形の面積の関係について、／図を基に変化の様子を見通し、表やグラフで表しながら関数関係を捉えることを通して、／説明できるようにする。

◆「ねらいには」A～Cの3つの要素を入れる。

◆特に、「B 学習活動」の記載に留意する。

⇒Bについては、

「順序づける、比較する、分類する、関連付ける、多面的に見る・多角的に見る、理由づける、見通す、具体化する、抽象化する、構造化する」等の「考えるための技法」を意識する。

【「ねらい」設定時の留意事項】

□ 本時の評価規準は、「ねらい」の「C 育成を目指す資質・能力」と対応しているか。それを使って実際に評価ができるか。

□ 本時の「ねらい」に則した「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」が適切に設定されているか。

（参考）「ねらい」は学習指導要領に基づいて指導する教師の視点で書くようにする。「ねらい」と標記する場合は語尾に留意する。